

ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ審査委員

委員長	水野 稔	(大阪大学名誉教授)
副委員長	増田 昇	(大阪府立大学大学院教授)
	森山 正和	(神戸大学大学院教授)
	池上 俊郎	(京都市立芸術大学教授)
	西村 伸也	(大阪市立大学大学院教授)
	前中 久行	(大阪府立大学大学院教授)
	嘉名 光市	(大阪市立大学大学院准教授)

作品講評(都市デザイン部門)

最優秀作品賞

オトナリから広がる風の道 ～水辺に広がる界限～ 関西大学環境都市工学部研究生 中辻 康次郎	増田審査副委員長
<p>水都大阪を象徴する道頓堀川に対して平面的あるいは断面的に「ハの字型」の空間を創出し、川面を流れる東西の風を市街地に引き込む「風の道」をつくるという地域性を考慮した優れた作品である。川面に面する敷地の間口が狭いため風が抜ける隙間を作るのが困難な現状に対して、敷地境界線を跨いで「ハの字型」の空間が創出されており、場所の特性も十分に読み込まれた提案となっている。小さな公共性をもったこれらの空間は、高い、身体、自然、文化とのインターフェイスをコンセプトに、都心において心地よい居場所が獲得できることや新たな水辺の舞台が生み出されることを予感させる軽やかなデザイン性を発揮している。</p>	

特別賞

DRY/WET DRY/WET DRY/WET (株)大林組 (代表) 荒井 庸行	増田審査副委員長
<p>石の舗装面の目地下に水みちをつくり、水の加圧減圧により水位を設定することにより、都市広場に薄水盤から舗装面までのさまざまな水景を創出するという独創的な技術提案である。季節や時間変化、変容する気候や気温によってダイナミックに対応でき、ヒートアイランド対策に効果的な運用が可能となる。昼のクーリング効果だけでなく水のリフレクション効果による夜間景観の演出も期待できる。</p>	

特別賞

おおさか涼化 都市改造大作戦 北田 成子	池上審査委員
<p>幅広い課題と対策が人為的構成である都市のヒートアイランド現象解決に要求される。“大阪涼化 都市改造大作戦”は、自然とともにある生活を都市に取り戻す戦線形成を訴える。“兵站補給線の確保” “グリーンゲリラの行動” “一夜森 大作戦” “環境救世軍”など過激な言葉はエキセントリックである。しかし現状の現象は、より過激に都市生活者の日常生活を奪っている。現在不可能な技術も含むが、本提案にあるビジュアルなプレゼンテーションは課題克服とともに生まれる楽しい未来を想像させる。本提案が示す、楽観的行動としての市民のボランティア的結集を具体的に実行することが、気候変動課題克服も視野に置く“ヒートアイランド脱却対策”に必要なときである。“笑いを持って真剣に” 解決に向けて行動する次のSTEPを期待し、評価する。</p>	

特別賞

「職×食×住」 ～Edible Succession in 船場～ 神戸大学大学院生 (代表) 國居 郁子	嘉名審査委員
<p>この提案は大阪の都心業務地、船場を対象として、屋上緑化や屋上菜園をネットワークさせ、林立する中小ビルの関係を構築して、業務商業というモノトーンのまちを、多様なライフスタイルを支える多色刷りまちへ変貌させることを目指している。アイデア自体は新味に欠ける。しかし、ビル群をつなぐ提案や屋上・上空空間の有効活用といった空間的提案にとどまらず、緑が加わることによって都心が複合的な機能をもった生活の場所へと変化していくプログラムを描いているところは評価したい。また、人々が潜在的に求めている都市のかたちを素直に描いてくれた提案とも言える。大阪が本気でヒートアイランド対策に取り組むのであれば、この提案を実現してしまうぐらいの覚悟が要るように思う。</p>	

作品講評（技術アイデア部門）

特別賞

ヒートアイランド抑制アイランド 関西電力㈱（代表）岸本 卓也	西村審査委員
大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域は内閣官房都市再生本部により「地球温暖化対策・ヒートアイランド対策モデル地域」に選定され、ヒートアイランド対策の推進が急務になっている。本アイデアは、中之島地区において、設備的な対策技術を中心に、複数のヒートアイランド対策技術を組み合わせて都心部のヒートアイランドの緩和をねらったものであり、対策の実現性、総合性、および波及効果の点から高く評価できる。対策実施効果の定量的評価と本アイデアの他地区への展開が今後の課題である。	

特別賞

《ヒートアイランド／熱中症予防に関わる提案》 黒田 昌孝	森山審査委員
大阪府下小学校の百葉箱を利用し、そこにWBGTセンサーも設置して各場所の暑さを測定し、熱中症の危険のある暑さを知ることができるようにする提案である。インターネットで市民に公開すれば他の場所での熱中症の危険度との比較も出来る。これは熱中症を予防する環境教育でもあり、ヒートアイランドの影響を客観的に評価するこのような観測ネットワークは、その現象を理解し、具体的な対策を考える上で大変重要な環境インフラであるとも言えよう。	

特別賞

樹木に任せる都市づくり 《樹木が自然樹形で育つ街》 634デザイン 佐藤 勇武	前中審査委員
樹木は都市のヒート削減効果をもっていることは一般にいわれている。ただし、その効果はエアコンのように積極的に冷やすものではなく、温度の上昇を防ぐという穏やかなものである。したがって、樹木による効果が発揮されるためには、大きな樹木が多量に存在することが必要である。樹木本来のスケールと生育条件を前提とした都市への樹木の配置とそのために必要な研究項目の提案は、都市構造の新たなあり方にも関連する斬新でかつ困難な課題に挑戦するものとして高く評価される。	

特別賞

遍在的な打ち水 大阪市立大学大学院生 ファーナム クレグ エドワート	水野審査委員長
交通・道路部門はヒートアイランドの主原因の一つであり、道路の保水化などの策があるが高コストおよび、ここへの水の供給も課題であった。本アイデアは、自治体の散水車ではなく、一般の乗り物を市民参加として打ち水に利用するもので、きわめて興味あるものと評価できる。また、水源として河川水や雨水の活用、協力者へのインセンティブにも配慮されている。鉄道などへの拡張性もあり、打ち水タンクなどの開発を行い、ぜひ実行に移したいアイデアである。	